

2011 年度 事業報告 (第 2 号議案)

(1) 年次大会(第 107 回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2011」開催報告

実行委員長 里村博 実行副委員長 竹内達夫 中島一浩

2011 年 6 月 6 日(月)～8 日(水)の三日間、日本画像学会年次大会(通算 107 回)〔Imaging Conference JAPAN2011〕が東京都品川区の「きゅりあん」にて開催しました。

今年の大会は 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により、他の学会が年次大会を中止するという状況並びに東京地域の電力事情によって計画停電が発生した場合、会場が使用できなくなるというリスクはありましたが、まずこの年次大会を開催することで、復興への一助になればと全実行委員の協力の下、大会を挙行いたしました。論文発表締め切りが震災前ということもあり、発表辞退が多数発生するのではという大会主催者の懸念にもかかわらず海外からの発表者も含め辞退件数はなく、最終的に 84 件の一般技術講演、特別講演 10 件(キーノートスピーチ 3 件、ビジネスセッション 3 件、特別講演 1 件、受賞記念講演 3 件)という近年にない多くの講演発表を行うことができました。

本大会では例年のごとく日本画像学会の学術領域である最先端のイメージング技術に関する討論の場を提供すべく、ハードコピーをはじめとする各種マーケティング技術、電子ペーパー/エレクトロニック・イメージング/新規イメージング技術/デジタルアプリケーション技術などについて多くのセッションを設けました。

また、今回は特に大会コンセプトとして「情報メディアの新世紀へ向けて」を掲げ、インターネットや端末の普及とサービスの拡充を背景にますます多様化する情報メディアの中で、我々の技術の価値を改めて問い直し、目指すべき姿を提案していくことを目的として、後述するキーノートスピーチ、ビジネスセッションを開催いたしました。さらに昨年の大会より併設しております技術ワークショップも 3 テーマ開催いたしました。

全体として、初日、里村博大大会実行委員長(キヤノン株式会社総合 R & D 副本部長)より開会の挨拶があり、引き続いてキーノートスピーチとして「デジタルコンテンツと印刷メディア」と題し東京電気大学出版局 植村八潮様よりデジタルコンテンツと印刷メディアの将来を考え、両者の特性の違いを取り上げて相互の補完関係について御講演いただき、植村様にはこの日の午後開催されたビジネスセッションにおいてもファシリテーターを勤めていただきました。

午後にはキーノートスピーチを受ける形で、ビジネスセッションを開催し、『創造する文字、伝える文字 - 電子出版が変えるものと変えないもの』と称し、iPad の出現により電子出版元年と言われた昨年の状況を踏まえ、電子書籍の課題、そして電子化によって出版という事業だけでなく、情報の送り手、受け手である私たちの文字に対する考え方、知識の変化などについて討論いたしました。御講演はまず凸版印刷株式会社 松林茂樹様より「電子出版のめざすもの」と題して、電子出版業界の現状と将来について、次にブックデザイナーの桂川潤様より『身体性(物

質性)」を喪失したテキストの行方 - 本格的な書籍電子化時代を前に』と題して、「物である本」と「電子書籍」のメリット/デメリットを冷静に見据えながら、戦略的に情報の「ストック」を構築する上での課題を、より具体的に掘り下げていただきました。最後に職業能力開発総合大学校 大野邦夫教授より「人間の知識と社会を変革する情報メディア」と題して、表示デバイスとインタラクションに関する考察から発展して、人間の直知に関する知識と記述に関する知識を対比させ、感覚に流されがちな最近のメディアの動向に対する記述による知識の重要性について御講演いただきました。この後、キーノートスピーチの植村様を交えて30分程度、学会としては初めて座談会として4名の御講演者に電子書籍の将来などについて幅広く議論を行いました。

また、ビジネスセッションと並行して、午前中に開催したインタラクティブのポスター発表を展示会と併設で開催しました。このポスター会場はこの日の夕方より行われた懇親会場にもそのまま使用し、懇親会として学会参加者の親睦だけでなく、ポスター技術の再討論、各展示会社様との技術交換なども同時に行え、大変有意義なものになったのではと思います。

2日目はキーノートにおいて「3Dプリンタ市場は日本のプリンタ技術を待っている」と題し、一般社団法人 3Dデータを活用する会・3D-GAN 相馬達也氏より立ち遅れている日本の3Dプリンタ参入を促す目的で3Dプリンタ全般について熱く語っていただきました。また、この日より昨年同様にワークショップを開催し、シミュレーション技術部会主催で「トナー溶融シミュレーションの物理モデルを議論しよう」が、画像処理技術部会主催で「ハイダイナミックレンジ画像入力技術の現状と展望」が行われました。

3日目は、前会長(現 HIRAK)平倉浩二様より「情報メディアと環境課題」と題して、情報の表示、伝達による環境影響を交えながら、異種メディアのクロス化によって知的創造が如何に変化するかについて御講演いただきました。この日のワークショップはサーマル技術部会主催で「サーマル記録技術の過去・現在・未来」が行われました。

ワークショップ全体の開催としては昨年同様20名の定員で開催しましたが、定員を上回る参加者を得ているWSも見受けられました。この状況は昨年にも見られた傾向で、さらに会場の活発な討論の状況は論文発表のセッション会場には見られないものでありました。各分野の専門研究者が技術レベルの向上を図るという学会の年次大会の目的を各セッションにおける深い技術議論に求めるとすると、学会の会員諸氏の求めるセッションの姿がワークショップに現れているのではと思われます。今後学会年次大会のセッション構成を組む際には考慮されるべきことで、また、来年度の実行委員会で議論していただきたい課題でもあると思われます。

本年の年次大会は震災後ということで参加者の大幅な減少が予想されましたが、総参加者数で約420名を越え、無事に会期を終了することができました。この参加者の減少が小幅で留まったことは、やはり発表論文件数の大幅増によるところが大きく、画像技術に対する会員諸氏の関心の強さを感じた3日間となりました。また、震災で他の学会が総会を中止する中で開催したことも意義深かったのではと思います。

最後に本大会を運営する上で例年同様ご協力をいただいた実行委員の皆様、震災影響の対応を大変強くバックアップしていただいた理事会の皆様、また多くの論文発表をいただいた大学関係者の方々、並びに画像技術に関わる各社の評議委員の皆様へ感謝申し上げますとともに、ご参加いただいた多くの会員の方々へ御礼を申し上げます。

来年度の開催は今回の「きゅりあん」から会場を替え、「東京工業大学すずかけキャンパス」にて開催する予定です。

本年と変わらず多くの発表並びに活発な議論が来年度もできますよう、実行委員会メンバー全員で準備を開始いたします。来年度の大会への御協力、宜しく願いいたします。

プログラムは本稿後半に記載（付録1）。

(2) 総会

2011年 6月 6日 Imaging Conference JAPAN 2011(ICJ2011) 開催初日にきゅりあん（東京・大井町）において第54回定時総会を開催した。昨年度から、Web経由で総会の出欠回答および各議案投票を行なうシステムを採用し、今年も従来のハガキ回答と併用した結果、個人会員からの回答率は62.7%（2010年度：67.7%）であった。会員宛のメールでのアナウンスが2010年度より遅れたことなどが原因である。2012年度はシステムと運用面を改善し、更に投票率が上がるよう工夫する。第54回総会は中山会長の挨拶の後、中山会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

2011年度役員候補の承認（第1号議案）

2010年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第2号議案、第3号議案）

2011年度事業計画および同収支予算の報告（第4号議案）

(3) 2010年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2010年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会 KM 研究奨励賞、日本画像学会 KM 研究賞および名誉会員の選考を行い、2011年 6月 6日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。（敬称略）**掲載号：日本画像学会誌，第 50 巻，第 4 号，（通巻第 192 号）， pp. 331-340**

<学会賞（第 18 回）1 件>

・北村孝司（千葉大学）

<功労賞（第 18 回）2 件>

・平倉浩治（元株式会社リコー、HIRAK）

・岡 建樹（コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社）

<論文賞（第 25 回）1 件>

著者：西浦美都子（京セラミタ株式会社）

論文名：「好ましい色再現とその評価方法に関する研究」

掲載号：日本画像学会誌，第 49 巻，第 5 号，（通巻第 187 号）， pp. 384-390

< 研究奨励賞(第18回)2件 >

由井悠基(横浜国立大学)

「 γ - Fe_2O_3 半導体のVOC分解への応用と光学・磁気特性」

Imaging Conference Japan 2010, pp. 89-92

西浦美都子(京セラミタ株式会社)

「好ましい色再現とその評価方法に関する研究」

Imaging Conference Japan Fall 2010, pp. 101-104

< 日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞(第6回) 1件 >

面谷 信(東海大学)

研究題目:「読みやすい電子ペーパーを目指す指針に関する研究」

< 日本画像学会コニカミノルタ研究賞(第6回) 1件 >

浅井敏明(株式会社リコー サーマルメディアカンパニー)

「リライタブル熱記録媒体へのレーザー記録(3)半導体レーザー記録による耐光性の向上」

Imaging Conference Japan 2010, pp. 223 - 226

< 会長特賞(第11回) 1件 >

長山智男(株式会社 リコー)

< 技術賞(第21回)2件 >

技術:「新規EA-Ecoトナーの開発」

富士ゼロックス株式会社 大門克己、矢野敏行、中沢 博、前川佳洋、杉崎 裕

技術:「電子粉流体を用いた高速応答型電子ペーパー「AeroBee」」

ブリヂストン株式会社 田沼逸夫、田村 一、櫻井 良、大野信吾、増田善友

(4) 年次大会(第106回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2011 Fall Meeting」開催報告(関西委員会)

2011年12月2日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地)にて、Imaging Conference Japan 2011 Fall Meetingを開催した。技術賞受賞記念講演2件、一般口頭発表14件、ポスターセッション10件の発表があった。研究討論会への参加者は96名(前年92名)であった。

今回は、一つのテーマを少人数で深く議論をするワークショップを併設した。山崎実行委員(花王株式会社)が司会を務め、「電子写真材料・プロセス開発における粉体計測技術の現状と今後」をテーマに、技術講習会の計測機器メーカー講師の方々と、有料参加者7名とで計測技術の進むべき方向について議論を深めた。

プログラムは本稿後半に記載(付録2)。

(5) 評議員会

2012年3月7日に東海大学校友会館(東京・霞が関)において開催し、2011年度事業報告、同財務報告、2012年度事業計画、同財務計画、及びICJ2011概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。出席者は62名(評議員33名、顧問3名、役員他26名)で終了後、特別講演会、懇親会を行った。

(6) 理事会

・下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、次期会長選考結果の承認、2011年度選奨、2012年度予算案の審議・承認等をおこなった。

・2011年

第1回：5月16日(月)午後3時～6時 霞会館

第2回：7月29日(金)午前10時～12時(午後：役員研修会)

株式会社リコー 大森事業所・大森会館

第3回：10月19日(水)午後2時～5時 霞会館

第4回：12月16日(金)午後3時～6時 霞会館

・2012年

第5回：2月7日(火)午後3時～6時 霞会館

第6回：3月7日(水)午後1時30分～3時 東海大学校友会館

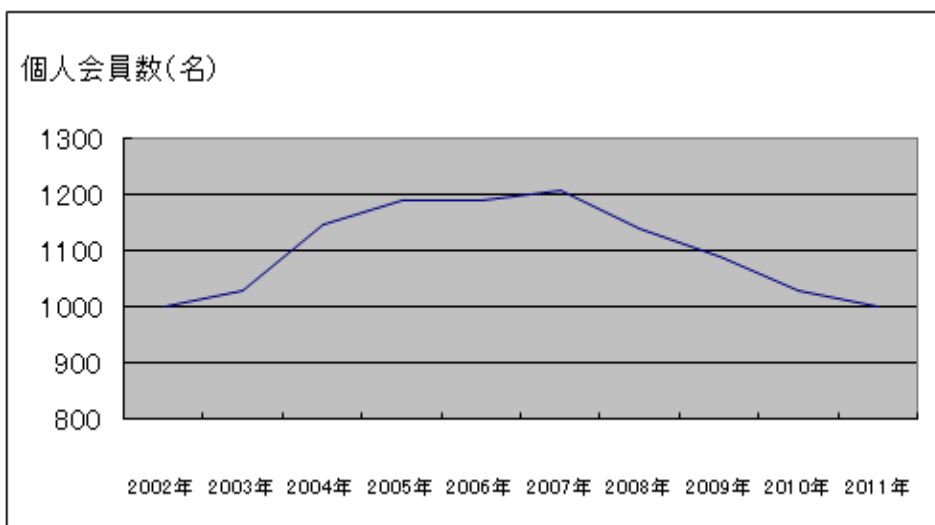
(7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

- ・大震災後、経済環境が厳しい状況が続いているが、例年とおりの研究討論会、研究会、講習会に加え新たにイメージングカフェを開催した。イベントの開催回数19回、開催日数23日であるが、参加者数は前年を下回っており、回復傾向が見えない。
- ・学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号1700-1600部前後であり、年6回、編集委員会 印刷会社 発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・イベントの参加登録にWeb経由システムを積極的に導入しており、年次大会をはじめ6イベントで活用した結果、会員サービスと事務効率のアップが実現された。
- ・理事会、各種委員会・部会の開催件数は例年同様、年間80件以上で活発な議論が交わされている。

○年度別個人会員数の推移

2002年度～2011年度末まで10年間の会員数推移を示す。2008年からの落ち込みが回復されていない。

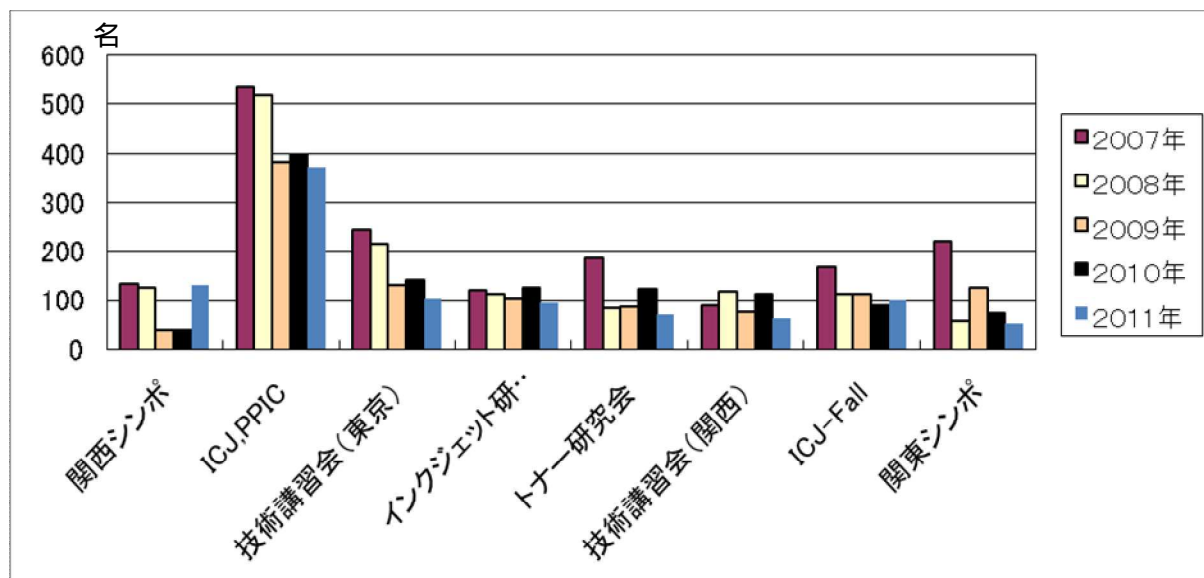
年度	個人会員数 (名)
2002	1001
2003	1029
2004	1147
2005	1188
2006	1190
2007	1206
2008	1129
2009	1087
2010	1027
2011	998



*2011年度は2012年2月末時点の数値

○学会の主なイベント参加者推移

2007年度～2011年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの参加者推移を示す。参加者数は2010年後半に回復傾向が見られたが、2011年度は2010年度実績の85%程度となった。



(8) 編集委員会 委員長 竹内達夫(キヤノン)

編集委員会開催6回(内1回は年間編集計画の為、合宿を開催),フリートーキング” Imaging Today ”開催2回,学会誌年6冊定時発行,本年度より年6冊の学会誌発行の内,1冊をクラスタ論文誌として全論文を特定技術分野に絞り,全て英文化した形で発行した.今後も年1回のペースでクラスタ論文誌の発行を行う予定である.また,昨年度より開始した「Advanced Technology」シリーズは192号において「無機と有機の融合材料」を取り上げた.

189号 (Vol. 50, No.1) 2月刊, 95頁, 巻頭言(会長), 一般論文2件, Imaging Today「電子写真の最新機器 更なる進展」, 教育講座「レオロジー入門」, 研究室訪問「千葉大学 小林研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話

190号 (Vol. 50, No.2) 4月刊, 85頁, クラスタ論文誌「Electronic Paper」, Prefatory Note, two Original Papers, six Invited Papers, one Invited Review, 教育講座「レオロジー入門」, 研究室訪問「東京大学 染谷研究室」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話

191号 (Vol. 50, N.3) 6月刊, 93頁, 一般論文4件, Imaging Today「最新の照明・光源技術」, 教育講座「レオロジー入門」, 研究室訪問「日本工業大学 星野研究室」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話

192号 (Vol. 50, No.4) 8月刊, 123頁, 一般論文1件, Advanced Technology「無機と有機の融合材料」, 教育講座「レオロジー入門」, 研究室訪問「東京工芸大学 佐藤研究室」, 2010年度学会表彰, 一般社団法人日本画像学会第54回定時総会資料, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真

学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

193号 (Vol.50, No.5) 10月刊, 94頁, 一般論文1件, 速報1件, 解説1件, Imaging Today 「材料分析技術」, 教育講座「トライボロジー入門」, 研究室訪問「青山学院大学 松川研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

194号 (Vol.50, No.6) 12月刊, 86頁, 一般論文4件, Imaging Today 「色を科学する」, 教育講座「トライボロジー入門」, 研究室訪問「同志社大学 日高研究室」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology の目次, 画像閑話

第19回フリートキング”Imaging Today” 「電子写真の最新機器 更なる進展」, 2011年4月26日(火)に、東京工業大学すずかけホール(横浜市)参加者69名

第20回フリートキング”Imaging Today” 「材料分析技術」, 2011年11月18日(金)開催, 東京工業大学すずかけホール(横浜市), 参加者47名

(9) 技術委員会 委員長 面谷信 (東海大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

- (1) 2008年度よりの委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制を、2011年度も継続。
- (2) 2011年11月9日(水)に第1回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題等について議論を行った。2011年度は、2012年1月27日(金)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。
- (3) 年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として2011年度は2012年1月27日(金)に開催した。総会に先だて同日に9つの部会が開催された。
- (4) ICJのワークショップに技術委員会からの企画で3件のワークショップ(各々、シミュレーション技術部会、画像処理技術部会、サーマル記録技術部会の主催)を開催した。
- (5) 選奨対象候補のエントリー数増加に技術委員会として協力し、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、結果的に技術賞は電子ペーパー部会関連の技術が受賞することとなった。
- (6) 2011年4月~2012年3月の間にシンポジウム1回(電子写真技術部会担当)、技術研究会4回(インクジェット技術部会:第110回、トナー技術部会:第111回、電子ペーパー部会/デジタルファブリケーション部会の合同:第112回、画像評価技術部会:第113回)および画像4学会合同研究会(画像処理部会)を開催。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会

- ・ 6回の部会を開催し研究会企画と新規テストチャート開発等について審議した。
- ・ テストチャート No.5: 2008の頒布を9月より開始し、HPでのお知らせを掲載した。
- ・ 「デジタル印刷はオフセット画質にどこまで迫れるか? ~ デジタルトランジションを支える画質設計を語る ~ 」と題して、インクジェットおよび電子写真方式の各社デジタル印

刷機の画質設計に込めた第一線の技術者の想いを聴き、パネラーに迎えてデジタル印刷の将来像を議論する第4回日本画像学会技術研究会（通算第113回）（2月22日、於：東京工芸大学 芸術情報館）を開催した。

2) 電子写真技術部会

- ・ 定例会部会4回、シンポジウム企画会議を4回、企画合宿（京都K R P、京セラファインセラミック館見学等）を1回開催した。
- ・ 日本画像学会シンポジウム「電子写真の次世代を担う技術革新」（12月9日、於：発明会館）を企画・開催した。

3) トナー技術部会

- ・ 定例会議を5回、定例会議の日に産学交流会議2回、合宿会議と研究会を各1回開催。産学交流会議は日本工業大学（3月）と千葉大学（11月）で開催した。内容としては、日本工業大学では、東日本大震災後で停電の恐れがあったことから工業技術博物館と落雷実験の見学会だけの部会とした。千葉大学では、北村研究室&星野研究室の研究内容を学生に説明してもらい質疑応答形式での技術交流を行った。
- ・ 標準キャリアの帯電量を検定するためのトナーの代替となる標準粒子の探索を行い、検討経過を10月の研究会で報告した。
- ・ 「トナー開発の歴史と今後：色と帯電の制御」をテーマとした研究会を2011年10月14日に開催した。

4) 画像処理技術部会

- ・ 部会1回とメール会議により、ICJ2011のワークショップと画像4学会合同研究会の企画検討を行った。
- ・ ワークショップでは、「ハイダイナミックレンジ画像入力技術の現状と展望」を取上げた。参加者はやや少なかったが、技術動向や、天体写真を実例とした処理例の話内外の講師から聞くことができた。入力側は進展しているが、出力側はこれからで、ソフトコピー等の可能性が高く感じられた。
- ・ 4学会合同研究会では、3.11の大震災により多くの写真や画像データが被災し、画像の保存、修復等に関心が高まっていることから「画像資産の復元と伝承 - デジタル時代の保管環境を考える - 」のテーマで開催した。有料46名とやや低調であったが、被災写真の救済からメディアの耐久性までの具体的な話を聞くことができた。
- ・ 2012年度の4学会は幹事学会が写真学会で、テーマとしてデジタルファブ리케이션が予定されているので、デジタルファブ리케이션部会と協力して対応していく。

5) 画像技術用語部会

- ・ 1回の部会を開催し用語集の改訂について審議した。
- ・ 2012年3月にWeb版、同10月に紙媒体での出版予定で改訂準備作業を進めた。

6) インクジェット技術部会

- ・ 定例会部会を7回開催した。
- ・ 技術研究会『インクジェット温故知新～インクジェット黎明期に技術革新はいかにしてなされたか～』を開催した。「コンシューマー市場向けのマーケティング技術として成熟を迎えたインクジェット技術は、次なる発展ステージにどう進化していくべきか、次のステージではインクジェット技術に何が求められているのか？」インクジェット技術部会では過去数年、この命題に焦点を当て研究会を開催してきた。今回はインクジェット黎明期に多く

の技術課題の解決や市場要求に応えるため活躍された Deep People に、実体験を通じて得られた研究・開発～商品化に取り組む姿勢、考え方そしてエピソードをお話しいただいた。参加人数(講演者、実行委員除く)は96名であった。

- ・ 合宿研修会を北海道立工業技術センター見学を兼ねて2011年11月18日(金)～19日(土)に実施した。1日目はイカ墨のインクジェットインク色材への応用研究に関し、工業技術センターの田谷主任研究員より説明を受け、2日目は部会会合(Imaging Today 解説記事執筆、用語集改訂、技術研究会テーマ、ICJ2012でのWSテーマ検討)を行った。
- ・ 2012年度の技術研究会は9月28日(金)を予定する。

7) 電子ペーパー部会

- ・ 2011年11月10-11日、電子ペーパー/デジタルファブリケーション研究会を日経BP社の協力を得て(FPD International と同時開催)パシフィコ横浜にてDF部会と共同開催した。参加者は会員・維持会員45名、非会員25名、学生2名の計72名(うち海外5名)であり、昨年のISEPより参加者は大幅に減少したが、アンケートによる聴講者満足度は高かった。
- ・ 定例部会(8回開催)合宿(岐阜大学・吉田研究室;カラー太陽電池技術見学)を実施。
- ・ 部会課題として議論した内容を「電子ペーパーのこれまでの10年、これからの10年」と題し2011年11月の研究会で発表した。

8) サーマル記録技術部会

- ・ 技術委員会総会開催時の他に年次大会での開催と、SONY様の品川本社にてショールーム「The Square」の見学と合わせた持ち回り部会1回の計3回実施した。
- ・ 2011年度は研究会としての開催はできなかったが、ICJ2011にてWSを開催することができた。WSでは、「サーマル記録技術の過去、現在、将来」というテーマで、熔融型熱転写記録、昇華型熱転写記録、直接感熱記録の3つの記録方式それぞれの歴史と技術の進展を振り返り、サーマル記録の本質的特長を描きだし、将来に向けた展望、これから取り組むべき技術・市場を議論した。サーマル記録はシンプルな記録プロセスであるため、小型化、高信頼性、低価格化が可能であること、メンテナンスフリー、メディアフリー、記録材のマテリアルフリーの特長から今後新たな展開が期待されるとの結論に至った。
- ・ 部会では、主査会議の討議内容の紹介、次回研究会のテーマに関する議論などを実施し、2012年度の前半に研究会を実施することを合議した。またICJ2011のサーマルWSのあと行われた部会において、今回のWS講演者の資料を中心に、サーマル記録技術についての歴史書をまとめてみてはどうかとの意見が出され講師3名の資料をベースに年表を整理し、技術解説を加え、画像学会誌の解説として投稿することとした。

9) イメージング材料部会

第9部会発足当初から、当学会のメイン材料分野である感光体に関する研究が成熟を迎え、実用化に向けた長寿化が開発の中心に移行していった。そのため当研究会としてイメージング材料としての感光体材料研究の総括を2008.12に第2部会と合同で開催した画像学会シンポジウム第2部として「感光体材料開発の現状とその新規電子デバイスへの展開」と題するシンポジウムを開催した。その後部会の企画運営等ができていないが、第9部会のミッションにもとづく新しい方向の模索と関連技術部会との合同研究会等の検討を今後も継続する。

10) シミュレーション技術部会

- ・ イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して、シ

ミュレーション技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め、部会を7回開催した。

- ・ 2011年夏の第71回技術講習会(7/7)にてシミュレーション実習を実施。参加者6名(+午前中のみの見学者1名)。スタッフ 受講者というかなり贅沢な(コストパフォーマンスの悪い)実習となったが、個々にTAが指導する形となり、例年になくスムーズに実習は進んだ。累計109人の実習満足度は95%以上。
- ・ ICJ2011にてWS”トナー溶融シミュレーションの物理モデルを議論しよう”を開催。(6/7)参加者31人(部会メンバー9名、講演者1名を含む)。講演中に質問カードに疑問点やコメントを記載してもらい、その中から討議課題をピックアップしたため、予想以上にディスカッションできた。また参加者にトナー溶融シミュレーション経験者が数名いたようで、かなり技術的に突っ込んだ議論が展開した。本手法は線形のモデルで計算を行うが、非線形の大変形問題を解くことが可能。CIPを使うことで数値拡散が抑えられること、統一解法として密度を解かないで圧力で解く、移流と非移流を分けて解くといった点が重要との認識を得た。

11) デジタルファブリケーション部会

- ・ 2011年10月26日-27日に電子ペーパー部会と合同で技術研究会『電子ペーパーとそれを支えるプリンテッドエレクトロニクスの最新動向』をパシフィコ横浜 会議センターにて開催した。
- ・ 部会(単独1回、電子ペーパー部会と合同5回)、合宿(4月22日-23日)を実施した。合宿は有機半導体材料の開発をされている広島大学の瀧宮研究室を訪ね、プリンテッドエレクトロニクスで注目を集めている高移動度有機半導体材料の開発動向と今後の展開について教授いただいた。
- ・ 2011年9月22日-23日にICFPE(The 2011 International Conference on Flexible and Printed Electronics)への参加を予定していたが、震災のため延期となった。2012年度開催に参加予定である。

12) 画像感性部会

- ・ 本年度は具体的活動が行えず、目標であった研究会/Workshopの開催が未達に終わった。来年度の開催に向けた準備を進めているが、「感性」のキーワードから発想される技術内容は多岐にわたっており、部会メンバー間でも興味対象の違いが大きい。従って、一度、それらを持ち寄って整理し、来年度に議論していくテーマを絞り込む作業を進める。

(10) コンファレンス委員会 委員長 阿部隆夫 (信州大学)

- ・ 2011年6月6日(月)、7日(火)、8日(水)の3日間、きゅりあん・品川区立総合区民会館(東京都品川区東大井5-18-1)において、“Imaging Conference JAPAN 2011”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第107回)]を開催した。本会は、キヤノン(株)が幹事会社として運営に当たった。実行委員長は里村 博氏、同副委員長は竹内達夫氏と中島一浩氏。

- ・コンファレンス委員会は次の構成で活動した。
委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：伊藤哲也(コニカミノルタ)、上原康博(富士ゼロックス)、大西 勝(ミマキエンジニアリング)、竹内達夫(キヤノン)、中山喜萬(大阪大)、平倉浩治(HiRAK)。
- ・2012年6月11日(月)、12日(火)、13日(水)の3日間、東京工業大学すずかけ台キャンパスすずかけホールで開催予定の“ Imaging Conference JAPAN 2012 ” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第109回)]は富士ゼロックス(株)に幹事をお願いした。実行委員会が組織され、開催に向けた準備を遂行中である(実行委員長：鶴岡亮一氏、同副委員長：上原康博氏、中山信行氏)。
- ・“ Imaging Conference JAPAN 2013 ” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第111回)]の企画・運営について(株)リコーをお願いすることに決定した。
- ・国際会議開催に関して、実施必要性の有無を含め、理事会等で検討中である。

(11) 事業委員会 委員長 上原康博 (富士ゼロックス)

- ・標準キャリア(担当：トナー技術部会)に関しては、新規標準品頒布はなく、頒布累計数ではN-01が全体の60%、P-01が全体の30%を占めている。
- ・昨年に引き続き、学会ホームページの試験標準品購入のQ&A情報を充実させる予定であったが対応が遅れており、今後、改良して対応する。
- ・テストチャート(担当：画像評価技術部会)に関しては、No5:2008年版の頒布開始し学会ホームページに案内を掲載した。また、今年度の頒布数ではNO.3が最も頒布数が多く全体の54%、次いでNO.4の31%、スクリーンゲージの10%の順である。
- ・2008年6月に刊行したデジタルプリンタ技術シリーズの累計実売数はつぎのとおりである。
(提供：東京電機大学出版局 2011年12月現在)

電子写真	3刷	2001部
電子ペーパー	1刷	1147部
インクジェット	3刷	1903部
ケミカルトナー	1刷	1089部

[協賛依頼]

2011年

- ・5/24 "2011年度第1回P&I研究会シンポジウム「プリンタの現状と将来展望」"
"DICビル 17階 大会議室" 日本印刷学会
- ・6/22-23 "第19回品質工学研究発表会「技術者の思考力を強化する品質工学」"
"きゅりあん" 品質工学会
- ・6/24 "色材オープンセミナー「トコトンやさしい界面活性剤」"
"東京塗料会館" 色材協会
- ・6/30 "第8回日本写真学会 光機能性材料セミナー 光電変換効率をいかに上げるか?"
"日本印刷会館" 日本写真学会
- ・7/1 "色材オープンセミナー「トコトンやさしい化粧品」" "東京塗料会館" 色材協会
- ・7/6 "色材分散講座" "大阪科学技術センター" 色材協会関西支部

- ・ 7/12 "2011 年度 P & I 研究会勉強会「電子書籍～日本の事情と今後～」"
"凸版印刷・印刷博物館" 日本印刷学会
- ・ 7/27 "2011 年度印刷・情報記録・表示研究基礎講座「基礎から学ぶ有機半藤体材料・
有機電子デバイス」" "東京大学・弥生講堂" 高分子学会
- ・ 8/4-5 "第 44 回塗料講座「コーティングの基礎から実践」"
"大阪科学技術センター" 色材協会関西支部
- ・ 9/12-13 "第 35 回静電気学会全国大会" "東京理科大学" 静電気学会
- ・ 9/20 "2011 年秋期セミナー「クロスメディアソリューションプロバイダーへの変革」"
"東京ビッグサイト" 日本印刷学会
- ・ 10/2-6 NIP27,DF2011 MInneapolis,Minesota,USA IS&T
- ・ 10/4-5 "第 5 回「イメージ・メディア・クオリティとその空間」国際ワークショップ"
"幕張セミナーハウス" 電子情報通信学会
- ・ 10/12 "色材講演会「暮らしと環境に調和する色材・コーティング技術」"
"大阪科学技術センター" 色材協会関西支部
- ・ 10/26-28 FPD International 2011 "パシフィコ横浜" 日経 BP 社
- ・ 10/28 "平成 23 年度オフセット印刷技術研究会研究例会「中堅技術者のためのオフセット
印刷技術の基礎と最新情報」" "日本印刷会館" 日本印刷学会
- ・ 11/2 "第 36 回顔料物性講座「ナノ色材分散技術と省エネルギー」"
"東京塗料会館" 色材協会
- ・ 11/18 "第 19 回カメラ技術セミナー"
"国立オリンピック記念青少年総合センター" 日本写真学会
- ・ 12/1-2 "第 8 回色材 IT 講座「発展するインクジェット技術 高速印刷とプリンタブル
エレクトロニクス」" "日本大学理工学部 駿河台キャンパス" 色材協会
- ・ 12/1-3 "高速度イメージングとフォトンクスに関する総合シンポジウム 2011"
"熊本大学工学部百周年記念館"
- ・ 12/7-9 IDW '11 "名古屋国際会議場" "映像情報メディア学会 SID 日本支部"
- ・ 12/19-20 "第 20 回微粒化シンポジウム"
"広島大学医学部" 日本液体微粒化学会 日本エネルギー学会

2012年

- ・ 1/28 "第 45 回光学五学会関西支部連合講演会「省エネ時代の光源と照明」"
"キャンパスプラザ京都" 光学五学会
- ・ 2/8 "page2012「PAGE から page へ-ePower で新領域へ」"
"サンシャインシティ" 日本印刷技術協会
- ・ 2/14 "2011 年度印刷・情報記録・表示研究会講座 - 広がる情報技術の将来像を探る - "
"産業技術総合研究所" 高分子学会
- ・ 3/2 "第 8 回「紙メディア」シンポジウム" "日本印刷会館" 日本印刷学会
- ・ 3/2 "実践カラーマネジメント教室 '12 "
"富士フイルムグラフィックシステムズ(株)本社" 日本写真学会
- ・ 3/15-16 "シンポジウム「モバイル'12」「時代を開くソーシャルメディアとデジタル
ネイティブたち」" "大阪市立大学 杉本キャンパス" モバイル学会

- ・ 9/6-8 "フレキシブル・プリンテッド・エレクトロニクス国際会議 2012
(2012 International Conference on Flexible and Printed Electronics
< ICFPE2012 >)" "東京大学" ICFPE2012 実行委員会

(12) 運営委員会 委員長 中居仁司 (プラザー工業)

- ・ 学会活動の年間予定の作成、年 6 回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。
- ・ 緒方事務局長や鈴木事務局次長、西原事務局員らと連携し、学会の実務的な運営を進めた。
- ・ 役員研修会として 2011 年 7 月 29 日(月)、株式会社リコー大森事業所大森会館を借用し、全役員にて次の 4 テーマに分れて検討を行った

学会ビジョン委員会：学会の発展方向の明確化とビジョン策定を目指し 2011 年下期から設置が理事会で承認、キヤノン/竹内理事が委員長として 2012 年度から本格的に活動開始したもの。役員研修会でその進捗とビジョン策定の加速方策を練った。

学会活性化、会員増加の戦略

国際交流、国際連携のあり方

事務局の機能強化

役員研修会当日のラップアップ、及び 2011 年 10 月の第 3 回理事会でその結果が承認され、夫々活動を展開中である。

学会ビジョン：

)学会新技術領域の設定を行うため 50 歳以下の理事若手メンバーによる WG を設置、技術のバラシと発展性予測の定量化を試みる。)ビジョン委員会で学会が向かう技術の方向性を示し、これをベースに技術委員会で技術ロードマップの構築を行う。

学会活性化・会員増の戦略

)学会ビジョン委員会の方針に基づき会員にとって魅力的な新規研究技術分野に対象テーマを広げる(ビジョン委員会 各委員会))学会誌を技術情報誌としての魅力を高める方向で施策を練る(編集委員会))技術研究会の企画の斬新化を図る(技術委員会)

国際交流・国際連携のあり方

)半那国際交流委員長を中心に、欧米だけでなくアジア諸国を含む諸外国の画像関連学会の窓口との連携強化。諸外国の画像関連学会の日程、年次大会等のイベント相互紹介

)PPIC のアジアもしくは日本での開催を ISJ として検討

)海外開催の技術講習会への講師派遣 等

事務局の機能強化

)事務局内 IT インフラ強化：イベント参加手続き web 処理、定時総会の出欠連絡・投票の電子化等にアウトソース利用と共に事務用パソコンの更新等を予算の許す範囲で強化する(アウトソース先への業務委託見直し、PC 更新ともに 2011 年度中に済み)

)会員情報のアップデート促進：email アドレスの更新・新規登録を促し電子化を促進することでイベント開催連絡、入退会の処理、会費支払い確認作業の効率化、等が狙い。

(13) 財務委員会報告 委員長 辰巳節次 (富士フィルム)

- ・ 2010 年度収支決算および 2011 年度予算の作成を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、総会にて 2010 年度決算および 2011 年度予算の承認を得た。
- ・ 2011 年度予算は、次のような方針で立案した。通常収支として収支均衡を目指す。学会の基礎となる会員費収入予算は減額しない。ICJ や講習会の収入はここ数年の実績を考慮して決める。支出は実績ベースで予算化する。新規の出版物作成費を計上する。
- ・ 会計処理規程に則って中間決算を行い、会計士によるチェックと監事による確認を受けた後に理事会に報告した。
- ・ 年度末の状況としては、新規出版物作成見送りにより予算に対し約 90 万円収支が改善しているが、全体としては約 40 万円の赤字の収支決算である。

(14) 国際交流委員会 委員長 半那純一 (東京工業大学)

- ・ 米国 画像学会主催、本学会共催の NIP27 International Conference on Digital Printing Technologies (NIP27)、Digital Fabrication (DF)(2011 年 10 月 2 日 ~ 10 月 6 日、 Mineapolice, 米国) の開催に協力した。
- ・ 本年度、理事研修会で議論された画像学会の国際化、アジア諸国の関連学会との国際交流の促進を具体化するため、中国、韓国、台湾、インド、タイ、オーストラリア等の近隣アジア諸国における本学会関連分野の学会等の組織活動について調査を行った。
- ・ 本学会との日韓交流の礎を築かれた Yongsoon Kim 教授退職を記念して開催された日韓画像科学シンポジウム (2011 年 6 月 16 日 ~ 18 日、Chonbuk 国立大学、Jeonju, 韓国) の協催を支援した。

(15) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

- ・ 広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ (URL : <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の継続的な管理運営を行った。特に、昨年度に体系化したホームページの運営体制 (ホームページ管理者と伴に更新担当者を設置) に加えて、各種イベントの情報発信をイベント開催担当者自身が実施可能なワークフローとすることで、更新のタイムラグの低減を図った。1997 年に開設して以来、500,000 件を超えるアクセス数となっている (2011 年 2 月現在) 。
- ・ 学会事務局の運営業務 IT 化活動として、事務局および運営委員会との連携により、昨年度導入した「Web サイトを用いた総会出欠確認システム」をベースとした会員データの web 管理化 (入退会事務処理、会費支払い確認等の自動化など) を実施した。このシステムを軸として、イベント事前登録処理等の各種運営業務の IT 化が展開されている。

(16) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞、および、日本画像学会コニカミノルタ研究賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

(17) 企画委員会 委員長 酒井真理 (セイコーエプソン)

個人会員向け新サービスとして、2011年2月に実施が始まった交流空間『イメージングカフェ』を、月1回の開催を目標に企画から運営まで取り組んだ。

『イメージングカフェ』は、気楽にイメージングについて語り合える場として、仕事帰りに気軽に立ち寄れる時間帯と会場を選び、最新技術、昔話、他分野情報、専門知識などの中から興味深い話題を取り上げ、20名程度の少人数参加により講師との距離感を無くし、積極的なディスカッションができる会となるよう運営に工夫を凝らした。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項は以下の通りである。

- 参加人数 最大18名(講師、運営委員を含まず)
- 開催日・時間 水曜日または金曜日、18:30～20:30
- 会場 恵比寿カルフル
- 参加費 1,000円(1ドリンク付き)
- 参加資格 原則として日本画像学会個人会員(賛助会員は含まず)
1週間前に空席がある場合は個人会員外(非学会員も含む)の参加を受け付ける

昨年度から本年度の『イメージングカフェ』開催内容は以下の通りである。

- 第1回 2011年2月25日 電子ペーパー裏話……………面谷 信(東海大)
- 第2回 2011年3月18日 東日本大震災のため中止
- 第3回 2011年6月1日 イメージング技術の温故知新……………北村孝司(千葉大)
- 第4回 2011年7月20日 台風のため中止
- 第5回 2011年9月10日 新画像技術のゴールドラッシュ 1970年代を振り返る
……………市川泰憲(日本カメラ博物館)
- 第6回 2011年10月12日 木活字からデジタル活字まで ～700年の歴史から見えてくるもの～ ……………高橋恭介(東海大名誉教授)
- 第7回 2011年11月25日 知られざるコンバーティングの世界、そしてフィルム印刷の変遷とこれから……………川上幸一(加工技術研究会)
- 第8回 2011年12月21日 インクジェット 2011年の総括～どうなる2012年?
……………藤井雅彦(富士ゼロックス)
- 第9回 2012年2月3日 色材の色調は何で決まるの?……………水口 仁(信州大)
- 第10回 2012年3月2日 天体写真が教えてくれる画像のゆくえ
……………蒔田 剛(キヤノン)

(18) 関西委員会 委員長 北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

関西シンポジウム 2011

2011年5月20日(金)、メルパルク京都(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13)にて、2011年度関西シンポジウムを開催した。「明日のトナーを探る - ケミカルトナーの進化 - 」というテーマのもと、1993年に製品化されてからの、各社のケミカルトナーの技術変遷について解説する5件の講演と、パネルディスカッションを行った。パネラーには講師の方に加え、森村ケミカル(株)の小口様を迎え、進化の内容と今後の将来展望を中心に活発に議論した(参加者104名、前年35名)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 内藤裕義(大阪府立大学)
 - ・懸濁重合法トナーの変遷と展望 増尾好治郎(日本ゼオン株式会社)
 - ・富士ゼロックスにおけるケミカルトナー変遷 大門克己(富士ゼロックス株式会社)
 - ・P×Pトナー 山下裕士(株式会社リコー)
 - ・コニカミノルタトナーの10年 小鶴浩之(コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社)
 - ・トナーの進化と将来展望 谷川博英(キヤノン株式会社)
- パネルディスカッション
「明日のトナーを探る - ケミカルトナーの進化 -」
- パネラー： 小口寿彦(森村ケミカル株式会社)
増尾好治郎(日本ゼオン株式会社)
大門克己(富士ゼロックス株式会社)
山下裕士(株式会社リコー)
小鶴浩之(コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社)
谷川博英(キヤノン株式会社)
- 司会： 荘所義弘(村田機械株式会社)
- ・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

第 72 回 技術 講習 会

2011年12月1日(木)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地)にて、関西委員会企画運営による第72回技術講習会「粉体物性の基礎と計測の実際～これを聞けばトナーが使える～」を開催した。粉体工学の基礎と、トナー計測技術と装置について講義の後に、機器メーカーの方々に計測機器展示と実演を行って頂いた(参加者51名、前年91名)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 倉本信一(株式会社リコー)
 - 1. 粉体とは その特徴とキャラクターゼーション 日高重助(同志社大学)
 - 2. 粉体計測の基礎 - 付着性、流動性、帯電性 松阪修二(京都大学)
 - 3. 粉体分散-画像解析法による高比重トナーキャリアの測定技術と解析方法検討
マルバーンが提案する各種粒子評価技術の最前線 平村行慶/井上直哉(スベクトリス株式会社)
 - 4. 粉体の付着力測定技術
ナノシーズの新型測定装置の測定事例紹介 島田 泰拓(ナノシーズ株式会社)
 - 5. 粉体の帯電測定技術 東尾 順平(トレック・ジャパン株式会社)
 - 6. ガス吸着法による比表面積/細孔分布測定 鷲尾 一裕(株式会社島津製作所)
- ・講演各社による技術展示
- ・日本画像学会 関西委員会 委員長挨拶 北岡 義隆(パナソニックシステムネットワークス株式会社)

Imaging Conference JAPAN 2011 Fall Meeting(第 108 回 研究 討 論 会)

2011年12月2日(金)、ハートピア京都(京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地)にて、Imaging Conference Japan 2011 Fall Meetingを開催した。技術賞受賞記念講演2件、一般口頭発表14件、ポスターセッション10件の発表があった。研究討論会への参加者は96名(前年92名)であった。

今回は、一つのテーマを少人数で深く議論をするワークショップを併設した。山崎実行委員(花王株

式会社)が司会を務め、「電子写真材料・プロセス開発における粉体計測技術の現状と今後」をテーマに、技術講習会の計測機器メーカー講師の方々と、有料参加者7名とで計測技術の進むべき方向について議論を深めた。 **プログラムは巻末に記載(付録2)。**

(19) 特別講演会

2012年3月7日 評議員会の後、産業技術総合研究所 フレキシブルエレクトロニクス研究センター センター長 鎌田俊英様により「次世代フレキシブルデバイスに向けたプリントエレクトロニクス技術の概要」と題しての特別講演会を開催した。

(20) 技術研究会

2011年9月22日(金) 日本化学会 化学会館ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)にてインクジェット技術部会企画の2011年度第1回日本画像学会技術研究会(通算第110回)を開催した。参加者96名(会員:72,非会員:22,学生:2)。

テーマは

「インクジェット温故知新～インクジェット黎明期に技術革新はいかにしてなされたか～」

「バブルジェット開発ストーリー(～BJにかけた夢～)」

太田 徳也 (IJ-DynamiX)

「なぜエプソンはインクジェットの商品化に成功したのか」

小藤 治彦 (インクジェット・ジェーピー)

「基礎研究から製品開発までを通じて得たもの、感じたこと -IJペーパー開発他-」

阿部 隆夫 (信州大学)

「創成期の日本のインクジェットにおいて材料の課題、活動、果たした役割」

野口 弘道 (エスアイアイ・プリンテック)

「連続噴射型インクジェット記録装置の開発と要素技術」 武藤 正行 (エーオー技研)

「インクジェット技術進化の総括」 藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)

インクジェット黎明期に多くの技術課題の解決や市場要求に応えるため活躍された Deep People に、実体験を通じて得られた研究・開発～商品化に取り組む姿勢、考え方そしてエピソードをお話しいただきました。

2011年10月14日(金) 虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)にて、トナー技術部会企画で2011年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第111回)を開催した。参加者64名(会員47名、非会員12名、学生5名。講師、委員、報道は除外)。

テーマ 『トナー開発の歴史と今後：色と帯電の制御』

【プログラム】

トナー開発の歴史、そして、市場は今

トナー開発の歴史 : 花王 丸田 将幸

東日本大震災の影響と今後 : データ・サプライ 山本 幸男

色と帯電の基礎・評価・制御

帯電量測定の標準化 - 標準キャリアと標準トナー - : トナー技術部会 多田 達也

標準キャリアを用いたトナー帯電特性の評価 : 日本工大 Disna Karunanayake

トナーの表面修飾を利用した帯電制御と着色性の付与 : 森村ケミカル 飯村 貴司
 色彩の基礎と測定 : エンカレッジ 渡辺 浩二
 顔料と顔料分散の基礎 : 日弘ビックス 中嶋 康晴
 高彩度重合トナーの開発「ハイカラーの技術開発」 : エンカレッジ テクノロジーズ 安川 裕之

2011年10月26日(水)午後 - 27日(木) パシフィコ横浜・会議センターにて、電子ペーパー部会とデジタルファブ리케이션部会の共同企画で2011年度 第3回 技術研究会(通算第112回)を開催した。参加者は、会員・維持会員45名、非会員25名、学生2名の計72名(うち海外5名)
 サブタイトル『電子ペーパーとそれを支えるプリンテッドエレクトロニクスの最新動向』

【プログラム】

10月26日(水)

	タイトル		講演者	所属
13:10~13:50	E-1	Advancements in Microencapsulated Electrophoretic Display Technology	Michael D. McCreary	E Ink Holdings
13:50~14:30	E-2	フルカラーエレクトロクロミックディスプレイ	八代 徹	リコー
14:30~15:10	E-3	電子ペーパーを用いたワイヤレススマートカード	横尾彰彦	ブリヂストン
15:10~15:30	休憩			
15:30~16:10	E-4	MEMS Display Bringing Full-Color Video Performance to e-Paper	Nesbitt Hagood	Pixtronix, Inc
16:10~16:50	E-5	電子ペーパーのこれまでの10年, これからの10年	雨宮 功	電子ペーパー部会

10月27日(木)

	タイトル		講演者	所属
10:00~10:40	E-6	eWriter: 電子ペーパーを用いたビジネス現場改革	戸塚 卓志	リコー
10:40~11:20	E-7	視覚・色覚特性と電子ペーパーの見え	溝上 陽子	千葉大学
11:20~12:00	E-8	紙と電子メディア: 読みの作業効率と環境負荷の比較	柴田 博仁	富士ゼロックス
12:00~13:15	昼休み			
13:15~13:20	デジタルファブ리케이션セッション開始挨拶			
13:20~14:00	D-1	プリンテッドエレクトロニクスの展望	染谷 隆夫	東京大学
14:00~14:40	D-2	高移動度有機半導体における構造・物性相関	瀧宮 和男	広島大学
14:40~15:00	休憩			
15:00~15:40	D-3	銀ナノ粒子インクによる焼成不要な導電性パターン形成技術	志野 成樹	三菱製紙
15:40~16:20	D-4	フレキシブルデバイス用高分子フィルム	白石 功	帝人グループ
16:20~17:00	D-5	R2R方式によるコーティング、パターニング装置	岩出 卓	東レエンジニアリング

2011年12月12日(月) 日本印刷会館(東京)にて、画像4学会合同研究会(共催(一社)日本印刷学会、(社)日本写真学会、(一社)画像電子学会、(一社)日本画像学会)「画像資産の復元と伝承 - デジタル時代の保管環境を考える -」をテーマとした研究会を開催した。

画像4学会合同研究会の詳細は(24)の項に記載。

2012年2月22日(水) 東京工芸大学(中野キャンパス 東京都中野区本町2-9-5)にて、画像評価技術部会企画で2011年度第4回日本画像学会技術研究会(通算第113回)を開催した。参加者 名(会員: , 非会員: , 学生:)。

テーマ 『デジタル印刷はオフセット画質にどこまで迫れるか?』

~ デジタルトランジションを支える画質設計を語る ~

【プログラム】

「Jet Press 720」

印刷本紙に対応した高速インクジェット機を支える画像設計

富士フイルム(株)アドバンストマーケティング研究所

井上 義章

- 「2800 Inkjet Color Continuous Feed Printing System」
 高速インクジェットが新たな市場を切り拓く
 富士ゼロックス(株)デバイス開発本部 IPF 開発部 清水 透
- 「imagePRESS C7000 シリーズの画質設計」 画質と安定性
 キヤノン(株)映像事務機事業本部映像事務機デバイス技術開発センター
 大木 誠
- 「bizhub PRESS C8000 の画質設計」
 プロフェッショナルニーズに応えるために
 エキスパートシステムズ(株)開発本部 エレクトロニクス開発センター
 鷲尾 宏司
- 「リコー Pro 901 の画質設計」
 (株)リコー 画像エンジン開発本部 杉山 敏弘
- 「Color 1000 Press」
 オフセット品質への挑戦：プロダクションカラー市場の獲得に向けて
 富士ゼロックス(株)デバイス開発本部 IPF 開発部 浅野 和夫

(21) シンポジウム

2011年12月9日(金) 発明会館 (東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会(旧第2部会)企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】 「電子写真の次世代を担う技術革新」

【参加者】 72名(会員51名、非会員2名、学生1名、講師8名、委員10名)

【講演内容】

第1部：新たな手法の探求

1. 電子写真設計プロセス革新のための粉体挙動シミュレータ開発
 株式会社リコー 宇佐美元宏・渡邊孝宏
2. 現像剤の運動挙動解析の新手法 ~粒子法シミュレーションとX線による可視化~
 コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社 斎藤和広・加川哲哉
3. ラジオグラフィによる現像剤粉体中のトナー混合挙動の可視化
 株式会社リコー 内田圭亮

第2部：新たな技術開発へ

4. 統一解法を用いた粘弾性シミュレーションによる定着ニップ内
 トナー溶融プロセスの可視化 富士ゼロックス株式会社 長谷部恵
5. 転写プロセスシミュレータを活用した試作レス開発への取り組み
 キヤノン株式会社 依田寧雄
6. DocuColor 1450GAの高画質マーキング技術とグロスコントロール
 富士ゼロックス株式会社 小林康之
7. RICOH Pro C751EXにおける液体冷却技術 株式会社リコー 岡野 覚

関西シンポジウムについては(18)関西委員会の項に記載

(22) 技術講習会開催報告 事業委員長 上原康博 (富士ゼロックス)

第71回技術講習会

・2011年7月7日(木)、8日(金)の両日、学術総合センター(東京千代田区)にて、第71回技術講習会を開催した。今年サブタイトルを「飛躍のための画像技術の基礎と最新動向」とし、これから画像技術に取り組む若手技術者に対する成長機会の提供とベテラン技術者に関しても技術全般を棚卸し整理する有意義な場となることを狙いとして27名の各方面で活躍されている講師の方をお招きして講演を頂いた。1日目に第1会場の一橋記念講堂にて初心者の方を対象とした「入門講習」を設け、これから画像技術に取組まれる方へ基礎から分かり易く解説することで、大変分かり易く有意義との評価を頂くことができた。また、第2会場である中会議室2、3、4での画像機器に関連の深い話題を解説する「画像関連技術一般講習」と、大変好評の「電子写真シミュレーション実習講習」も合わせて実施した。3会場を使った初日は参加される方の多様な要望に応えることのできる内容となった。

2日目は分野を「電子写真関連講習」と「その他プリンティング技術に関する技術講習」に分け、2つの会場で開催し、より詳細な解説を最新のトピックスを交えながら講義することで、詳細な知見の習得と最新技術動向が俯瞰出来るようにプログラムを構成した。

会場内スペースを使った展示会は昨年の9社から今年は3社減少し、合計6社(富士フィルム株式会社様、山本通産株式会社様、株式会社フォトロン様、株式会社島津製作所様、コニカミノルタセンシング株式会社様、トレックジャパン株式会社様)のご参加を頂いた。

有料参加者数は104名(会員・維持会員85名、非会員17名、学生2名)となり、前年度より39名の大幅減少となった。しかし20代の参加者が増えていることより、震災・厳しい経済環境の中でも人材育成の必要性は感じられる。2012年度は経済動向を見ながら参加者数確保と支出抑制の検討が必要である。

・1日目 第1会場(一橋記念講堂) 総論および入門講習

1. インクジェット技術入門 竹内 寛 コニカミノルタ IJ (株)
2. 生産設備としてのインクジェットとその評価手段 高橋 一義 (株)トライテック
3. 画像関連材料(トナー)の評価技術(方法)入門 山崎 弘
コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
4. 電子写真プロセ基礎技術入門 今井 力 (株)リコー
5. 紙の基本特性とその製造方法 小林 孝男 王子製紙(株)

・1日目 第2会場(中会議室2・3・4)) <画像一般に関わる講習>

6. 環境に配慮した企業活動 石塚 金蔵 富士ゼロックス(株)
7. 付加価値創出のための最新インクジェット技術 徳増 路子 日本スクリーン製造(株)
8. 熱記録技術の基礎と1パスフルカラー記録技術”ZINK” 寺尾 博年 アルプス電気(株)
9. 画像処理・認識の全自動化・最適化技術の最新動向 長尾 智晴 横浜国立大学
10. 電子ペーパーの技術と展望 高橋 達見 大日本印刷

・1日目 第3会場(中会議室1) 電子写真シミュレーション実演実習

11. イントロダクション 川本 広行 早稲田大学
12. ポアソン方程式、熱伝導方程式の物理的な意味 中山 信行 富士ゼロックス(株)
13. スプレッドシートによるお手軽電界計算(定常問題) 仲野 正雄 キヤノン(株)
14. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算(非定常問題) 伊藤 朋之 富士ゼロックス(株)

- ・2日目 第1会場(一橋記念講堂) <電子写真に関する技術講習>
- | | | |
|---------------------------|-------|------------|
| 15. 電子写真プロセスの画像安定化技術関連 | 丸田 貴之 | (株)リコー |
| 16. 電子写真現像剤の基礎知識 | 富田 正実 | (株)リコー |
| 17. 電子写真感光体の基礎-動作原理と技術動向- | 中村 博史 | 富士ゼロックス(株) |
| 18. ペーパーハンドリング技術概論 | 関口 肇 | キヤノン(株) |
| 19. 転写メカニズムの基礎とシミュレーション | 長尾 剛次 | 富士ゼロックス(株) |
| 20. 電子写真定着技術の動向について | 加藤 基 | キヤノン(株) |
- ・2日目 第2会場(中会議室2・3・4) <その他プリンティング技術に関する技術講習>
- | | | |
|-------------------------------|-------|-------------|
| 21. 視覚と画像 | 内川 恵二 | 東京工業大学 |
| 22. デジタルファブリケーションと大面積エレクトロニクス | 関谷 毅 | 東京大学 |
| 23. 高速度カメラを用いたプリンターの可視化事例 | 鈴木 祐介 | (株)フォトロン |
| 24. 最新の粒子径分布評価技術 | 鬼沢 康夫 | 日機装(株) |
| 25. インクジェットプリンタ高画質化技術進化の歴史 | 角谷 繁明 | セイコーエプソン(株) |
| 26. インクジェットインク概論 | 倉林 豊 | キヤノン(株) |
| 27. ライン型インクジェットの高速度技術 | 中山 幸治 | 理想科学工業(株) |
- 技術講習会実行委員会 委員長 笠間 稔(富士ゼロックス)
- 委員 中里 保史((株)リコー) 山崎 弘(コニカミノルタビジネステクノロジーズ)
- 水野 恒雄(水野国際特許商標事務所) 萬道 律雄(王子製紙) 半那 純一(東工大)
- 吉澤 孝一(セイコーエプソン) 吉田 稔(東芝テック) 和田 光央(三菱化学)
- 黒須 久雄(リコー) 稲葉 繁(富士ゼロックス) 伊東 展之(キヤノン)
- 事業委員長 上原 康博(富士ゼロックス) 事業委員 小川 格(三菱化学)
- 電子写真シミュレーション実演講習は、技術委員会旧第10部会との共同開催

第72回技術講習会は(18)関西委員会の項に記載。

(23) 画像4学会合同研究会

2011年12月12日(月)に日本印刷会館(東京)において、四学会((一社)日本印刷学会、(社)日本写真学会、(一社)画像電子学会、(一社)日本画像学会)共催の「画像資産の復元と伝承 - デジタル時代の保管環境を考える -」をテーマとした研究会を開催した。

有料参加者46名(会員41名、非会員4名、学生1名) 講師、報道、幹事含め59名。

 テーマ 「 画像資産の復元と伝承 」 - デジタル時代の保管環境を考える -

【プログラム】

- | | | |
|--|-----------------|-------|
| 1. 「東日本大震災における被災写真の救済活動」 | 富士フィルム(株) | 鎌田 桂成 |
| 2. 「文化財デジタルアーカイブとその活用」 | 凸版印刷(株) | 寺師 太郎 |
| 3. 「デジタル画像ファイルの記録フォーマットについて ~ 保管適正と国際標準化動向 ~ 」 | オリンパスイメージング(株) | 吉田 英明 |
| 4. 「クラウド時代にどのようにデータを保存し、残していくか」 | 鳥取環境大学 | 今井 正和 |
| 5. 「デジタル記録メディアの耐久性について」 | (一社)日本記録メディア工業会 | 山口 温敬 |

(24) 2011年度 学会概要、役員名簿、各委員会名簿

学会概要

創立年月 1958年6月30日

事務局 東京都中野区本町2丁目9番地5号(東京工芸大学内)

会員数 個人会員 998名 (2011年度入会者数 144名、退会者数 160名)

維持会員 72社 (2011年度入会数 0社、退会数 3社)

2012年3月末現在

2011年度学会役員

会長

中山喜萬 (大阪大学)

理事

阿部隆夫 (信州大学)

池田光弘 (三菱製紙)

伊藤哲也 (エニチエレクトロニクス)

上原康博 (富士ゼロックス)

大西 勝 (ミマキエンジニアリング)

大橋豊史 (三菱化学)

小沢義夫 (京セラミタ)

面谷 信 (東海大学)

川本広行 (早稲田大学)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

北久保 茂 (日本工業大学)

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

小林範久 (千葉大学)

酒井真理 (セイコーエプソン)

佐藤利文 (東京工芸大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

神野文夫 (王子製紙)

竹内達夫 (キヤノン)

武田有介 (リコー)

辰巳節次 (富士フイルム)

内藤裕義 (大阪府立大学)

中居仁司 (ブラザー工業)

中村 雅 (シャープ)

橋本清文 (エニチエレクトロニクス)

半那純一 (東京工業大学)

細矢雅弘 (東芝)

監事

小池直正 (三菱製紙)

中山信行 (富士ゼロックス)

幹事

長山智男 (リコー)

顧問

窪田 啓次郎

三川 禮

坂田俊文 (東海大学)

北村孝司 (千葉大学)

河村孝夫 (大阪府立大学)

小門 宏

田嶋紀雄 (エニチエレクトロニクス)

平倉浩治 (HiRAC)

高橋恭介 (東海大学)

横山正明 (大阪大学)

高橋 通 (キヤノン)

評議員

(社名五十音順)

秋山 悟 (アイメックス)

森下浩延 (出光興産)

松田 実 (岩崎通信機)

田口哲也 (エステー産業)

宮本孝典 (エヌ・ティ・ティ・クオリス)

清水良浩 (王子製紙)

小山達也 (沖データ)

中島則夫 (沖デジタルイメージング)

安松雅司 (オリエント化学工業)

名和政良 (花王)

山崎修一 (カシオ計算機)

岩田将和 (三洋化成工業)

西村 隆 (スペクトリス)

油井勇飛 (シャープ)

小野 博 (富士ゼロックスマニファクチャリング)

田中雅和 (住友ゴム工業)

古賀欣郎 (セイコーエプソン)

仁科貞彦 (綜研化学)

坂本 茂 (大日精化工業)

武衛弘之 (DIC)

研究開発センター(大日本印刷)

津田雅也 (大日本スクリーン製造)

野口啓次 (ナガセケムテックス)

小澤和三 (日清製粉グループ)

石崎雅也 (日本製紙)

増尾好治郎 (日本ゼオン)

小林弘道 (パウダーテック)

若林勇文 (パナソニックシステムネットワークス)

迫 康浩 (バンドー化学)

上田彦二 (藤倉化成)

齊藤 潔 (富士ゼロックス)

会沢宏一 (富士電機システムズ)

依田 章 (富士フイルム)

太田讓二	(桂川電機)	小林 透	(高砂香料工業)	田谷武久	(富士フィルムイメージングシステムズ)
平賀祐二	(キーテック)	大藤正浩	(中央合成化学)	梅原 浩	(富士薬品工業)
里村 博	(キヤノン)	井上鉄司	(TDK)	服部康弘	(ブラザー工業)
石垣 亨	(キヤノン化成)	百武勇人	(電子化工)	加賀紀彦	(ブリヂストン)
石永博之	(キヤノンファインテック)	化成品事業部営業部(東海ゴム工業)		笠原 郁	(保土ヶ谷化学工業)
浅井 保	(京セラ)	細矢雅弘	(東芝)	高村寛昭	(三菱化学)
巖島圭司	(京セラミタ)	笠井利博	(東芝テック)	小池直正	(三菱製紙)
吉田 崇	((独)国立印刷局研究所)	佐藤伸一	(東洋インキ製造)	大西 勝	(ミマキエンジニアリング)
木田修二	(コニカミノルタIJ)	稲垣 潤	(東レエンジニアリング)	武藤 猛	(武藤工業)
松野尚司	(コニカミルタテクノロジーセンター)	事務機器審査長(特許庁)		西田昭憲	(村田機械)
浅井真吾	(コニカミルタビジネステクノロジーズ)	安藤富雄	(凸版印刷)	鈴木 一	(山梨電子工業)
風見 豊	(サカタインクス)	和田恵一郎	(巴川製紙所)	海老 豊	(リコー)
加治屋浩	(サトーホールディングス)	上原利夫	(トレックジャパン)		
松浦英夫	(サムスン横浜研究所)	田中章裕	(内外カーボンインキ)		

(平成24年1月現在の登録名簿にて記載)

編集委員会

委員長

竹内達夫 (キヤノン)

編集幹事

鈴木弘治 (元リコー)

副委員長

永戸一志 (東芝)
中山信行 (富士ゼロックス)

委員

池田光弘	(三菱製紙)	堤 眞洋	(京セラミタ)	前田 秀一	(東海大学)
井嶋喜明	(パナソニックシステムネットワークス)	内藤裕義	(大阪府立大学)	村井 朝	(元富士フィルム)
北久保 茂	(日本工業大学)	中村一希	(千葉大学)	山口智貴	(ユーテック)
木村正利	(富士ゼロックス)	長山智男	(リコー)	山崎 弘	(コニカミルタビジネステクノロジーズ)
黒沢俊晴	(元松下電器)	美才治隆	(リコー)	山下春生	(元パナソニック)
龍田岳一	(富士フィルム)	西野俊夫	(シャープ)		

技術委員会

委員長

面谷 信 (東海大学)

副委員長

木村正利 (富士ゼロックス)

画像評価技術部会

主査

伊藤哲也 (コニカミルタビジネステクノロジーズ)

委員

芦崎浩二	(ソニー)	今河 進	(リコー)	曾根拓郎	(リコー)
一谷修司	(コニカミルタテクノロジーセンター)	駒崎岳夫	(富士フィルムイメージングシステムズ)	山田英治	(富士フィルムイメージングシステムズ)
井出 収	(富士ゼロックス)	斎藤 恵	(キヤノン)		

電子写真技術部会

主査

永瀬幸雄 (キヤノン)

委員

笠井利博 (東芝テック)

島田知幸 (リコー)

高山 暁 (東芝)

中村博史 (富士ゼロックス)

服部好弘 (エニギマルビシネステクノロジーズ)

藤井章照 (三菱化学)

松代博之 (リコー)

校條 健 (キヤノン)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

トナー技術部会

主査

多田達也 (キヤノン)

委員

上原利夫 (トレック・ジャパン)

栄田朗宏 (花王)

太田英樹 (京セラミタ)

木村正利 (富士ゼロックス)

小林弘道 (パウダーテック)

沢山 昇 (リコー)

鈴木千秋 (富士ゼロックス)

原田 大輔 (クラリアント・ジャパン)

星野勝義 (千葉大学)

星野坦之 (日本工業大学)

画像処理技術部会

主査

松木 眞 (元NTTクオリス)

委員

会津昌夫 (キヤノン)

阿部淑人 (新潟県工業技術総合研究所)

石井 昭 (富士ゼロックス)

大久保 宏美 (リコー)

黒沢俊晴 (元松下電器)

小寺宏暉 (千葉大学)

清水 透 (富士ゼロックス)

関沢秀和 (画像電子学会)

角谷繁明 (セイコーエプソン)

蒔田 剛 (キヤノン)

画像技術用語部会

主査

北久保茂 (日本工業大学)

委員

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

坂谷一臣 (エニギマルビシネステクノロジーズ)

酒井真理 (セイコーエプソン)

正道寺 勉 (日本工業大学)

多田達也 (キヤノン)

西村克彦 (キヤノン)

野田明彦 (富士ゼロックス)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

星野坦之 (日本工業大学)

堀田吉彦 (リコー)

谷中一寿 (神奈川工科大学)

インクジェット技術部会

主査

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

委員

江口裕俊 (リコー)

大倉浩和 (三菱製紙)

岡田真一 (DIC)

酒井真理 (セイコーエプソン)

高田雅之 (ブラザー工業)

竹内 寛 (コニカミノルタIJ)

竹本清彦 (セイコーエプソン)

中島一浩 (キヤノン)

電子ペーパー部会

主査

堀田吉彦 (リコー)

委員

雨宮 功 (東芝)

有澤 宏 (富士ゼロックス)

植田秀昭 (ダイソー)

大野信吾 (ブリヂストン)

面谷 信 (東海大学)

川瀬健夫 (日本触媒)

北村孝司 (千葉大学)

佐野隆之 (巴川製紙所)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木 薫 (ブリヂストン)

都甲康夫 (スタンレー電気)

藤田郁夫 (三菱製紙)

前田秀一 (東海大学)

八代 徹 (リコー)

サーマル記録技術部会

主査

寺尾博年 (アルプス電気)

委員

朝倉太郎 (東芝ホクト電子)

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

大嶋克之 (大日本印刷)

寺嶋尚久 (富士フイルム)

中西雅寿 (ローム)

眞島 修 (マジマ研究所)

間野 茂 (コニカミルホールディングス)

藤井豊子 (ソニー)

渡邊和宏 (京セラ)

イメージング材料部会

主査

横山正明 (大阪大学)

委員

岡野光俊 (東京工芸大学)

小林範久 (千葉大学)

内藤裕義 (大阪府立大学)

長山智男 (リコー)

半那純一 (東京工業大学)

星野勝義 (千葉大学)

シミュレーション技術部会

主査

門永雅史 (リコー)

委員

伊藤朋之 (富士ゼロックス)

加川哲哉 (コニカミルビシシステムビジネス)

川本広行 (早稲田大学)

仲野正雄 (キヤノン)

中山信行 (富士ゼロックス)

長谷部 恵 (富士ゼロックス)

平林 純 (キヤノン)

前田昌孝 (ブラザー工業)

デジタルファブ리케이션部会

主査

酒井真理 (セイコーエプソン)

委員

梅津信二郎 (東海大学)

小田正明 (アルバック)

鈴木 明 (千葉大学)

鈴木幸栄 (リコー)

染谷隆夫 (東京大学)

西 真一 (コニカミルタIJ)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

画像感性部会

主査

五十嵐 明 (新化学技術推進協会)

委員

内堀法孝 (セイコーエプソン)

鍵谷賢治 (リコー)

北久保 茂 (日本工業大学)

木村正利 (富士ゼロックス)

竹内達夫 (キヤノン)

多田達也 (キヤノン)

松木 真 (元NTTクオリス)

服部好弘 (コニカミルビシシステムビジネス)

藤井雅彦 (富士ゼロックス)

横山正明 (大阪大学)

コンファレンス委員会

委員長

阿部隆夫 (信州大学)

委員

伊藤哲也 (エニカミルビジネステクノロジー) 大西 勝 (ミマキエンジニアリング) 中山喜萬 (大阪大学)
上原康博 (富士ゼロックス) 竹内達夫 (キヤノン) 平倉浩治 (HiRAC)

事業委員会

委員長

上原康博 (富士ゼロックス)

委員

大橋豊史 (三菱化学)

学会標準品部会

画像評価技術部会(伊藤主査)およびトナー技術部会(多田主査)と連携

講習会部会

シミュレーション技術部会(門永主査)と連携

講習会実行委員長 笠間 稔 (富士ゼロックス)

講習会実行委員

伊東 展之 (キヤノン) 萬道律雄 (王子製紙) 吉田 稔 (東芝テック)
稲葉 繁 (富士ゼロックス) 水野恒雄 (水野国際特許商標事務所) 和田光央 (三菱化学)
黒須久雄 (リコー) 山崎 弘 (エニカミルビジネステクノロジー)
半那純一 (東京工業大学) 吉澤孝一 (セイコーエプソン)

運営委員会

委員長

中居仁司 (ブラザー工業)

副委員長

北久保 茂 (日本工業大学)

副委員長

小島洋樹 (キヤノンファインテック)

委員

小沢義夫 (京セラミタ) 竹内達夫 (キヤノン) 橋本 清文 (エニカミルテクノロジーセンター)

関西委員会

委員長

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

委員

伊藤 昇 (エニカミルビジネステクノロジー) 倉本信一 (リコー) 長江 偉 (三菱電機)
岩田将和 (三洋化成工業) 荘所義弘 (村田機械) 濱田敏正 (シャープ)
金本成一 (ブラザー工業) 高島祐二 (ハイランドテック) 三木隆司 (バンドー化学)
狩野 篤 (京セラミタ) 内藤裕義 (大阪府立大学) 山崎征人 (花王)
川上哲哉 (京セラ) 中山喜萬 (大阪大学) 横山正明 (大阪大学)

選奨委員会

委員長

内藤裕義 (大阪府立大学)

委員

阿部隆夫 (信州大学)

倉本信一 (リコー)

中居仁司 (ブラザー工業)

上原康博 (富士ゼロックス)

酒井真理 (セイコーエプソン)

中山喜萬 (大阪大学)

面谷 信 (東海大学)

竹内達夫 (キヤノン)

長山智男 (リコー)

北岡義隆 (パナソニックシステムネットワークス)

辰巳節次 (富士フイルム)

半那純一 (東京工業大学)

財務委員会

委員長

委員

伊藤哲也 (コニカミルビビジネステクノロジー) 神野文夫 (王子製紙)

細矢雅弘 (東芝)

国際交流委員会

委員長

半那純一 (東京工業大学)

委員

岡 建樹 (コニカミルビビジネステクノロジー) 竹内 学 (ユーテック)

星野坦之 (日本工業大学)

北村孝司 (千葉大学)

中山喜萬 (大阪大学)

広報委員会

委員長

長山智男 (リコー)

副委員長

佐藤利文 (東京工芸大学)

委員

奥田幸一 (キヤノン)

内藤裕義 (大阪府立大学)

渡辺靖晃 (富士ゼロックス)

木村正利 (富士ゼロックス)

企画委員会

委員長

酒井真理 (セイコーエプソン)

委員

池田光弘 (三菱製紙)

正道寺 勉 (日本工業大学)

服部好弘 (コニカミルビビジネステクノロジー)

面谷 信 (東海大学)

中島一浩 (キヤノン)

森下浩延 (出光興産)

2011年度学会暦

		2011年												2012年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
木							1			1	関西講習会					
金	1						2	イメージングカフェ			2	ICJ Fall				
土	2						3				3					
日	3						4				4					
月	4		1				5				5					
火	5		2			1	6				6					
水	6		3	憲法記念日		2	7			1	7					
木	7		4	みどりの日	1	イメージングカフェ	8			2	8					
金	8		5	こどもの日	2		9			3	文化の日					
土	9		6		3	技術講習会	10			4	9	関東シンポ				
日	10		7		4	技術講習会	11			5	10					
月	11	190号発送	8		5		12			6	11					
火	12		9	ICJ2011・総会	6		13			7	12	画像4学会				
水	13		10	ICJ2011	7		14			8	13	194号発送				
木	14		11	ICJ2011	8		15	192号発送		9	14					
金	15		12		9		16			10	15					
土	16		13	191号発送	10		17			11	16	4回理事会				
日	17		14		11		18			12	17					
月	18		15		12		19			13	18					
火	19		16	第1回理事会	13		20			14	19					
水	20		17		14	海の日	21			15	20					
木	21		18		15		22	敬老の日		16	21					
金	22		19		16	イメージングカフェ	23			17	22					
土	23		20	関西シンポ	17		24	インクジェット研		18	23					
日	24		21		18		25	秋分の日		19	24					
月	25		22		19		26			20	25					
火	26	フリーターキング	23		20		27			21	26					
水	27		24		21		28			22	27					
木	28		25		22		29		23	23	28	画像評価研				
金	29	昭和の日	26		23		30		24	24	29					
土	30		27		24	第2回理事会・役員			25	25	30	イメージングカフェ				
日			28		25				26	26	31					
月			29		26				27	27		技部会総会				
火			30		27				28	28						
水			31		28				29	29						
木					29				30	30						
金					30					31						